

令和 4 年度
グループホーム 亀天福寿苑
事業報告書

(1) 基本方針

「一緒に」 「共に」 を大切にし、私たちは支援します。

(運営方針)

- ① ご利用者一人一人が「その人らしく」生活が送れるように支援します。
- ② ご家族と積極的に交流し、「安心」を提供します。
- ③ 地域の方との交流を行い、より良い関係作りを行います。
- ④ 職員の質の向上を目指し、より良い職場環境を提供します。

(重点目標)

- ① ご利用者の生活歴や趣味を把握し、その方に合わせたケアを行うことができるように、各職員が毎月担当のご利用者のアセスメントを行い、ユニット会議にて担当者会議を開催し、職員間で情報共有を行うことができるよう実施しました。ご利用者の自尊心を大切にし、関りを持つことでご利用者自身の思いをくみ取るように心がけました。ご利用者一人一人の身体状況を把握し、コロナ禍ではありましたが、一人一人の残存能力を生かすことができるように、個別レクでの対応を行ってきました。

季節の行事では、新型コロナウイルスの影響でご家族や地域の方に参加して頂く事が出来ませんでした。各ユニットで夏祭り・敬老会・クリスマス会を行いました。毎月季節に合わせた手作りおやつを行うことで、ご利用者の役割を生かし充実した日々を過ごしていただくことができました。日々のレクリエーションでは、ご利用者一人一人に合わせた個別レクリエーションを提供し、塗り絵や貼り絵などで、季節を感じる事ができる壁画作りを行い、身体機能維持することができるように行いました。

- ② 日々の食事摂取量や排泄、睡眠状況、日常の活動量を把握し、異常時に早期発見することができるよう関わりを持ち対応を行いました。異常時には看護職と介護員が連携し、ご家族様や主治医に報告を行い、早期に対応を行い、安心した生活を送ることができるよう支援を行いました。また、ヒヤリハットを多く出すことで、危険リスクを職員間で共有を行い、事故の予防に努めました。また、入所の相談や問い合わせの際には早急に対応をすることができるように、対応職員を増やすことで入所への援助を状態に合わせ対応を行いました。
- ③ 令和4年度は、新型コロナウイルス流行もあり、地域の方との交流が難し

い年となりました。近所の方との挨拶の際に会話をするなどの交流に努めました。地域の防災会議に参加し、お声掛けをして頂くこともあり、地域の情報の交換を行いました。

- ④ 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所や地域連携室へ定期的に訪問を行い、情報共有を行いました。地域の施設入所希望についての情報共有やコロナ禍での他施設や病院などの対応なども状況に合わせてお聞きすることもできました。広報誌を定期的に配布することで、問い合わせをして下さるきっかけ作りにも努めました。

ご利用者の定期受診の際には、日ごろの状態をご家族や主治医に伝えることができるように暮らしの状況表やバイタル表などを使って情報提供を行いました。必要な際には、病状経過報告書を作成し、お渡しすることで、処方検討などに繋げることができました。

(2) 利用者に対するサービス

● 食事

ご利用者の嚥下状態や咀嚼状態などに合わせ、食材を一口大や刻みなどを行い、安心食事することができるように提供を行いました。減塩の必要な方には、副食の提供の際に工夫を行うなど、施設で可能な対応方法の検討を行い、実施しました。また、毎月手作りおやつを取り入れ、一緒に作ることで役割を持ったり、作ることを楽しまれたり、季節感を味わうことができるよう支援行いました。

● 入浴

入浴時には、一人一人の身体状況に合わせ、特殊浴や一般浴で対応を行っています。ゆっくりと入浴して頂くように落ち着いた環境作りを行っています。入浴前には、バイタルを確認し、看護職との連携も図り実施しています。一人一人の希望の温度での対応を行っています。入浴時には、ご利用者の好まれる話をしたりしてリラックスして洗身などして頂くことができよう実施しています。体調に合わせて、シャワー浴や清拭を行うこともありました。入浴時には、皮膚状態の確認を行い、異変時には看護師に報告を行い、すぐに観察して頂き、対応を行っています。

今後も安全、安心に入浴して頂くことができるように努めます。

● 排泄の介助

ご利用者一人一人の身体状況に合わせ排泄介助を行っています。立ち上がり不十分なご利用者には、転倒のリスクも考え、二人介助にて対応を行うこともあります。紙パンツや紙おむつ、パットなどは、排泄パターンを把握し、その時の状況に合わせて対応を行いました。日中や夜間によって使用方法を検討し、職員間で共有し、統一したケアを行うように努めました。排便の確認を行い、必要時には看護職へ伝え、下剤を使用し、使用後の状態も把握し、今後使用についての検討も行いました。

- 健康管理

毎日のバイタル測定に、昼食前や夕食前測定を行い、一日の中でも変化に気づくことができるように実施しました。異変時には看護職へ報告し、ご家族や医療との連携に努めました。食事摂取量や水分摂取量を把握し、日頃の状態の把握を行うことで、異常時の早期発見に努めました。新型コロナウイルス感染症発生時には、早期にゾーニングを行うことで、最小限に感染を収めることに努めました。職員への感染対策についてシュミレーションを行うことで、感染症発生時には職員がすぐに対処することができました。日々の生活の中でも、感染予防の為に、こまめな手洗い、手指消毒、感染回避行動に努めました。今後も、周辺の感染状況を把握しながら対応を行っていきます。

- 機能訓練

ご利用者一人一人の残存能力に合わせ、午前中は身体を動かすレクリエーションを中心に、午後からは創作活動を中心にレクリエーションを行っています。午前中は、ラジオ体操やタオル体操を行い、楽しみながら身体を動かすことを提供しています。職員が、ご利用者が楽しんでできることを考えレクリエーションに取り入れ提供しています。午後からは、塗り絵や貼り絵などの創作活動を行っています。それぞれのご利用者に合わせ、塗り絵をして頂いたり、貼り絵に使う折り紙を千切ってもらするなど、できることを提供しています。それを基に、季節を感じるような壁画を毎月作成しています。ご利用者も、自身が手伝ったことで、達成感を感じることができ、充実した時間を過ごしていただいています。

- 行事

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症発生もあり、各ユニットでの行事開催となりました。ご家族や地域の方と一緒にすることができませんでした。ご家族様には、行事の様子の写真を見て頂くことができるように玄関に各ユニットの行事写真を配置したり、日々の様子としてお手紙を送らせて頂きました。季節を感じるできるようにドライブや戸外食を行いました。気分転換を行うことで、穏やかに過ごすことができました。クリスマス会や敬老会、節分、ひな祭りなど、各ユニットでの小規模開催ではありましたが、ご利用者の楽しむことができるゲームなどを考え、笑顔で楽しめる様子が見られました。

- ボランティアの受け入れ、地域交流

令和4年度は、新型コロナウイルス流行の為、実施できませんでした。今後は、地域行事開催の状況を情報として取り入れ積極的に参加をすることができるようにします。

- 防災・防火対策

4月と10月に防火訓練を行いました。日中と夜間想定をそれぞれ行っています。また、南海地震を想定した訓練、土砂災害を想定した避難訓練も行っています。実施後は、職員間で意見を出し合い、検討を行いました。防火訓練の際には、水消火器を使用し消火器の使用方法や防火設備の講習も行いました。自治会の防災会議に参加し、地域の災害に対する意見などもお聞きすることができました。今後も、地域の方との連携をすることができるように取り組んでいきます。

- 職員研修

内部研修を中心に行いました。職員が、自身が学びたいことについて意見を出し、1年間の研修スケジュール沿って行いました。職員自身が自身で学んだことを基に、講師となり職員全員での研修を行いました。学んだことに対し、それぞれ自身で目標を立て一か月実施しました。

(3) その他の重要な取り組み

① 新型コロナウイルス感染症予防及びまん延防止対策

ご利用者、職員のワクチン接種、毎日の健康観察の実施、こまめに手洗い、うがい、手指消毒、換気の実施に努めました。定期的な抗原検査の実施を行い、早期に感染を確認し、早急にゾーニングの実施を行いました。職員については日頃より、基本的感染対策を行いました。

② ハラスメント対策

研修を行い、ハラスメントを理解することで、働きやすい環境作りに努めました。個々の話し方や発言などにも注意することができました。

③ 地域における公益的な活動

地域の防災会議に参加し、その地域の状況の把握を行い、自施設の状況を伝える活動に努めました。

④ 介護職員等処遇改善加算への取り組み

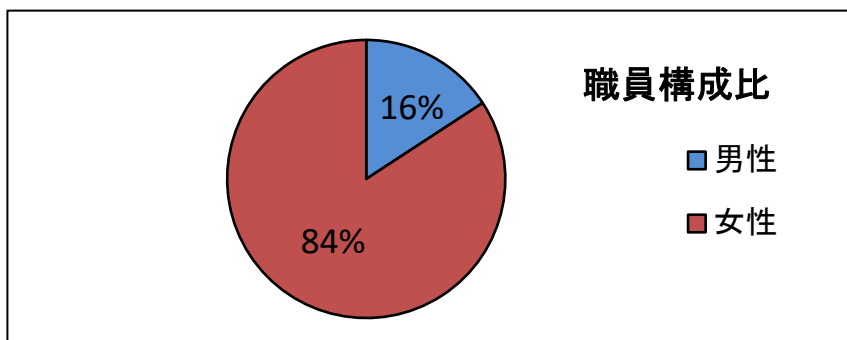
認知症についての内部研修の実施を行いました。目標を自身で考え、理解を深めました。介護職初任者研修に参加し、介護技術の向上に努めました。

1. 事業所

① 概要

事業所名	グループホーム 亀天福寿苑		
事業所種別	認知症対応型共同生活介護事業所		
事業所住所	今治市高部字基石山甲661番地1		
管理者職名	山田 古津枝		
職員数	男性	女性	総数
	3名	16名	19名

(令和4年3月31日現在)



②職員紹介

亀天福寿苑は、管理職・看護師・計画作成担当者・介護員にて形成されております。

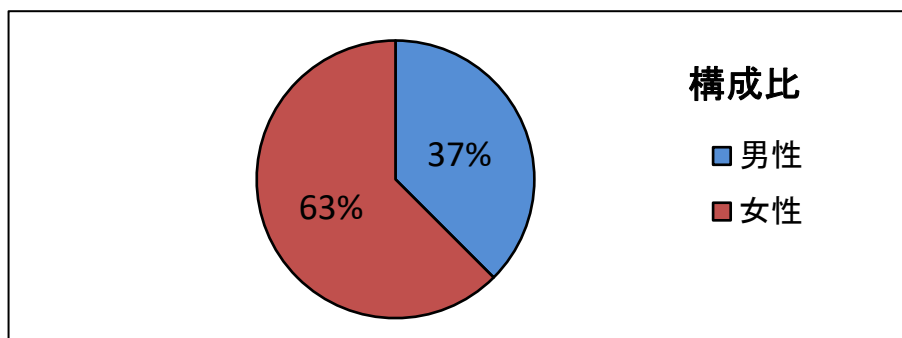
管理職1名、計画作成担当者2名、介護支援専門員、看護師1名、介護員15名でご利用者18名の支援を行っています。

介護員15名のうち、介護福祉士4名 初任者研修修了者5名 がご利用者の支援を行っております。管理職、計画作成担当者、看護師にも、介護福祉士の資格の取得者や認知症リーダー研修修了者など、認知症対応共同生活介護には欠かせない専門知識を有した職員が属しております。また、行事の際には得意なおやつ作りを發揮し、毎月手作りおやつを実施したりご利用者が楽しむことができるレクレーションを考え提供を行っています。

亀天福寿苑が運営理念として掲げている「一緒に共に」を大切にし、私たちは支援します。」を大切にし職員一同、支援を行っています。

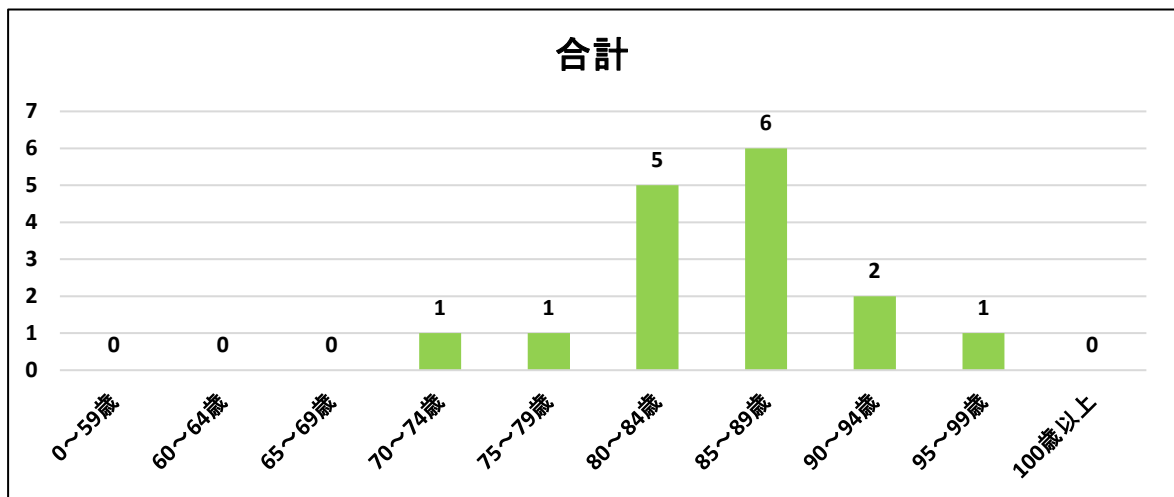
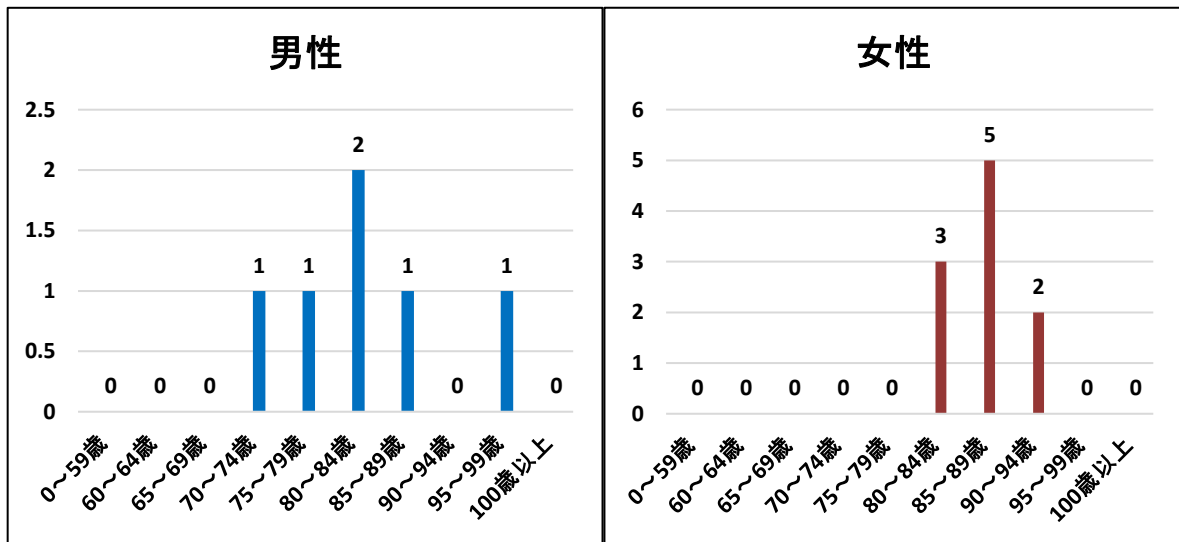
2. 定員及び現在人員(令和4年3月31日現在)

定員	現在人員	性別	
		男性	女性
27名	16名	6名	10名



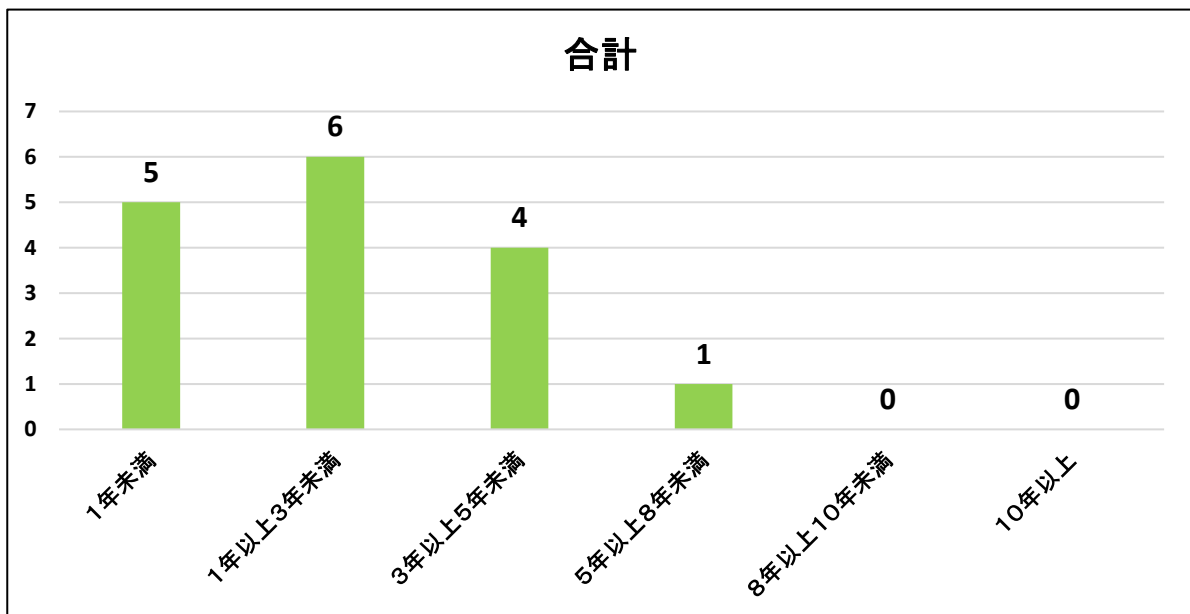
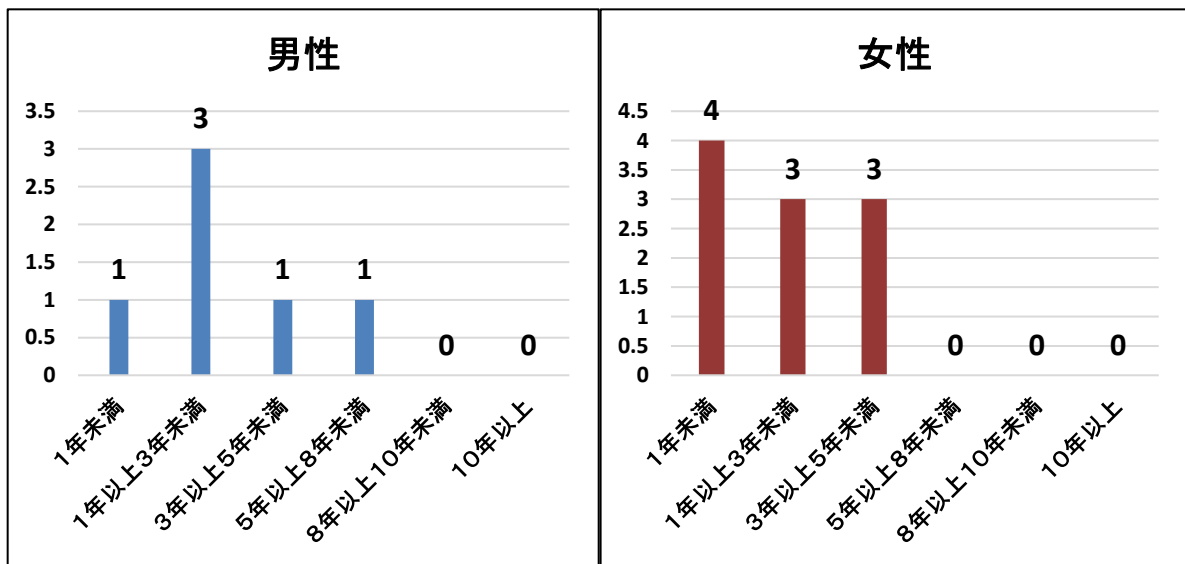
2. 年齢別人員

	男性	女性	合計人数と構成比	
			人数(名)	構成比(%)
0～59歳	0	0	0	0
60～64歳	0	0	0	0
65～69歳	0	0	0	0
70～74歳	1	0	1	4
75～79歳	1	0	1	8
80～84歳	2	3	5	8
85～89歳	1	5	6	38
90～94歳	0	2	2	23
95～99歳	1	0	1	11
100歳以上	0	0	0	0
合計	6	10	16	100
	最高年齢	最低年齢	平均年齢	男女平均年齢
男性	96	71	82.3	
女性	94	80	87.2	



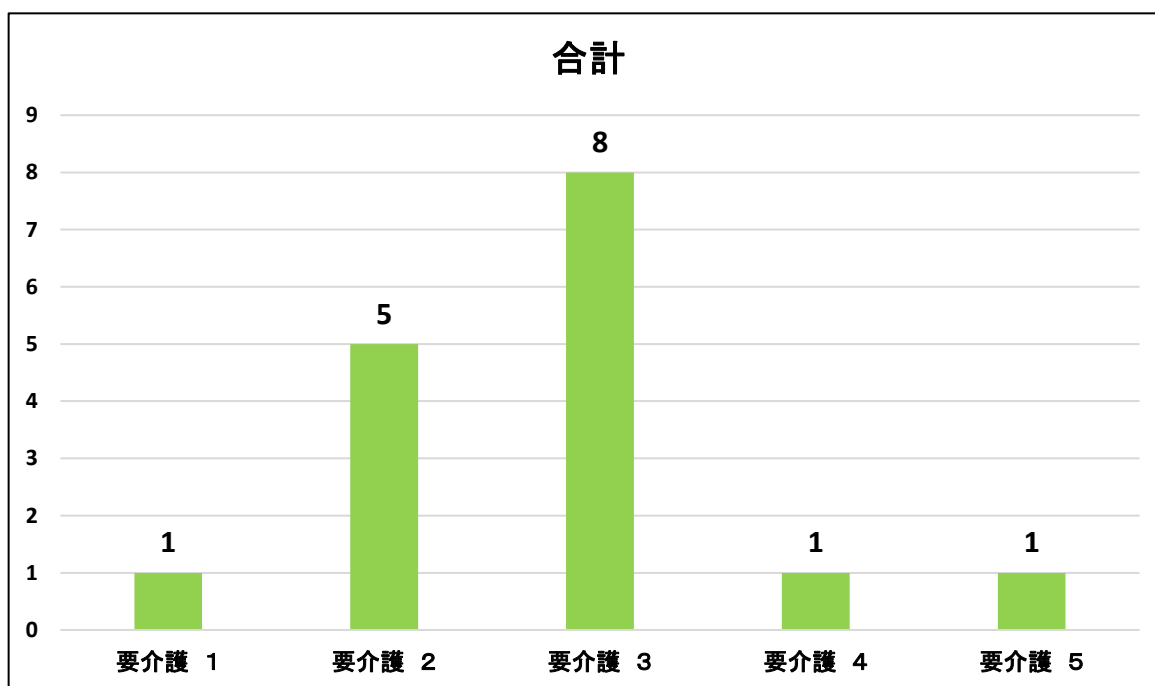
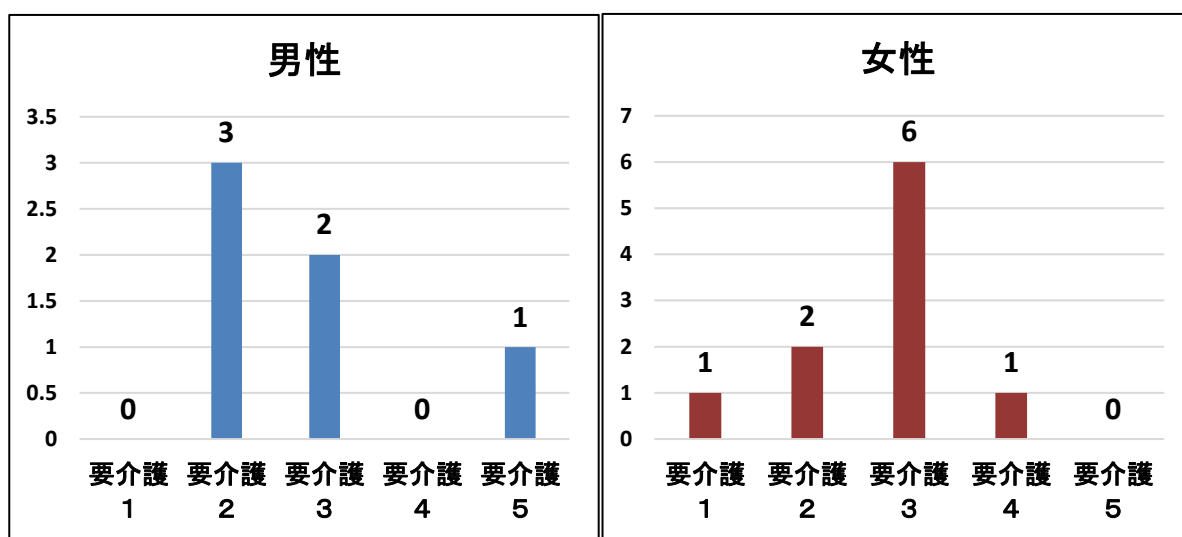
3. 入居期間別人員

	男性(名)	女性(名)	合計(名)	構成比(%)
1年未満	1	4	5	50
1年以上3年未満	3	3	6	23
3年以上5年未満	1	3	4	19
5年以上8年未満	1	0	1	8
8年以上10年未満	0	0	0	0
10年以上	0	0	0	0
合計	6	10	16	100
平均入居期間	2年9か月	2年5か月	2年7か月	



4. 平均介護度別人員

	男性(名)	女性(名)	合計	
			人数(名)	構成比(%)
要介護 1	0	1	1	15
要介護 2	3	2	5	27
要介護 3	2	6	8	35
要介護 4	0	1	1	19
要介護 5	1	0	1	0
合計	6	10	16	100
平均介護度	2.8	2.7	2.75	



5. 面会状況(令和4年4月1日～ 令和5年3月31日迄の1年間)

総数	24
1か月平均	2人
最高(1人あたり)	8回
最低(1人あたり)	1回
年間1人平均	1.3人
1か月1人平均	0.108人

6. 研修実施状況

【内部研修】

実施月	研修内容	研修講師	出席者数
4月	利用者様の生活歴や習慣、趣味や性格などの背景に着目し「何を必要としているのか」「何を求めているのか」といった「心理的ニーズ」を理解することでその人にあったケアを探る。	介護職員	19名
5月	中核症状とBPSD(行動・心理症状)はどう違うかについて理解し利用者様の行動の背景にある「なぜ」を考え、本人の気持ちに寄り添った対応をする。	介護職員	18名
6月	ノロウイルスなどの感染症の種類・原因・予防・感染経路を経つ・どのような対策が必要になるかを学び汚物処理(シュミレーション)ができるようになる。	看護師	18名
7月	身体拘束・虐待とその底辺に潜むグレーゾーン・不適切ケアを考え「利用者ファースト」のより良い支援を行う。	介護職員	18名
8月	認知症の原因疾患の理解を踏まえたアセスメント力や最善の介護方法の選択や実践ができる。	介護職員	18名
9月	ハラスメントの種類を知り職員間の発言や態度を考え働きやすい環境を作る。	介護職員	21名
10月	火災・自身が起きた際の避難の違いを理解し行動ができるようになる。防火訓練を行い改善点を見つける。	介護職員	20名
11月	利用者様の安心・安全を確保する為にヒヤリハットを出し想定される事故を見つけ出し、どのような場面で起きやすいのかを理解、対策方法を職員間で共有することができる。	介護職員	20名
12月	インフルエンザやコロナの種類を理解し、要望対策・発症時の対応(シュミレーション)ができるようになる。	看護師	20名
1月	防犯にかかる安全の確保について各現場特有のリスク・課題を把握することで不審者が侵入した場合の退所・利用者の避難ができるようになる。防犯訓練を行い改善点を見つける。	介護職員	20名
2月	認知症権利擁護を学び利用者の尊厳を守り安心して過ごせるような支援ができる。	介護職員	19名
3月	緊急時の対応の手順を理解し応急処置ができるようになる。心肺蘇生法。食べ物による窒息の応急処置の講習(シュミレーション)	介護職員	18名

【外部研修】

実施月	研修種類	研修内容	出席者職種
9月	講義	認知症対応型サービス事業管理者研修	介護職員
3月	講義	介護職員初任者研修	介護職員

7. 行事・クラブ活動及びボランティア受入れ実施状況表

【行事・クラブ活動】

実施月	指導援助者	内容	参加者数
4月	介護職員	お花見ドライブ	17名
	介護職員	お茶会・お誕生日会	25名(各ユニット)
5月	介護職員	戸外食	26名(各ユニット)
	介護職員	さつま芋苗植え	17名(各ユニット)
	介護職員	運動会	26名(各ユニット)
6月	介護職員	紙芝居屋	25名(各ユニット)
	介護職員	カラオケ大会・誕生日会	28名(各ユニット)
7月	介護職員	七夕	26名(各ユニット)
	介護職員	手作りおやつ	23名(各ユニット)
8月	介護職員	誕生日会・手作りおやつ	25名(各ユニット)
	介護職員	夏祭り	25名(各ユニット)
9月	介護職員	敬老会	26名(各ユニット)
	介護職員	誕生日会・歓迎会	25名(各ユニット)
10月	介護職員	誕生日会・おやつ作り	24名(各ユニット)
	介護職員	展示会	21名(各ユニット)
	介護職員	さつまいも収穫	20名(各ユニット)
11月	介護職員	いも餅作り・誕生日会	26名(各ユニット)
	介護職員	紅葉ドライブ	17名(各ユニット)
	介護職員	誕生日会・どら焼き作り	23名(各ユニット)
12月	介護職員	クリスマス会	22名(各ユニット)
	介護職員	おもち作り	22名(各ユニット)
1月	介護職員	新年会	25名(各ユニット)
	介護職員	鏡開き	24名(各ユニット)
	介護職員	誕生日会・手作りおやつ	23名(各ユニット)

2月	介護職員	節分	23名(各ユニット)
	介護職員	誕生日会・手作りおやつ	24名(各ユニット)
3月	介護職員	ひな祭り	21名(各ユニット)
	介護職員	誕生日会・手作りおやつ	25名(各ユニット)
	介護職員	おはぎ作り	22名(各ユニット)

【地域交流・ボランティア受入れ状況】

実施月	団体名	内容	参加者数

9. 苦情状況

【苦情状況】

日付	法人との関係	内容
令和4年度		特になし



